

無料

大阪府立大学21世紀科学研究機構「教育福祉研究センター」
第4回キックオフセミナー



すべての子どもを包括する支援システム： 学際的議論 ～「学校プラットフォーム」の意味とは～

2015年9月26日（土）

13:00-17:30（受付開始12:30）

基調講演1：「福祉政治学の立場から」 中央大学教授 宮本太郎氏

基調講演2：「教育行政学の立場から一国の教育政策や自治体の取り組み動向一」
放送大学・東京大学名誉教授・中教審副会長 小川正人氏

討 論：
文部科学省生涯学習政策局参事官 子供の貧困担当 大谷圭介氏
文部科学省初等中等教育局児童生徒課長 坪田知広氏
国立教育政策研究所総括研究官 中野 澄氏
東京学芸大学教授・学長補佐 松田恵示氏

コメント：
厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課長 古川夏樹氏
進 行：
長崎純心大学教授(元厚生労働省専門官・社養協事務局長代理) 潮谷有二氏
大阪府立大学スクールソーシャルワーク評価支援研究所所長・教育福祉学類教授 山野則子

少年事件、居所不明問題、いじめ問題など事件が相次いでいる。その背景には貧困や児童虐待などの課題が深く影響している可能性を意識すべきであろう。子どもの問題の喫緊の課題に対し、平成26年夏に子供の貧困対策大綱が成立した。その内容を実現させ機能させるのはこれからである。例えば、その内容の1つにスクールソーシャルワークが明記され、5年後には中学校に1人の配置が示唆された。しかし、人を配置すればいいというものではない。機能するような仕組みをどう作っていくのか、教育と福祉の協働のあり方や明示された学校プラットフォームの意味は何なのか。なぜ学校なのか、日ごろ福祉の研究者と教育、政治学、社会学の研究者で議論することはさほど多くはない。

場 所：大阪府立大学学術交流会館 多目的ホール

定 員：200名

お申込先：eb-ssw@sw.osakafu-u.ac.jp

※お名前・ご所属を明記してください。



主催：大阪府立大学21世紀科学研究機構スクールソーシャルワーク評価支援研究所・教育福祉研究センター・地域保健学域教育福祉学類
後援：大阪府・大阪府教育委員会・一般社団法人日本社会福祉士養成校協会・堺市教育委員会・公益社団法人日本社会福祉士会

※本取組は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター（RISTEX）より支援を受け「研究開発成果実装支援プログラム」実装プロジェクト「エビデンスに基づくスクールソーシャルワーク事業モデルの社会実装」として、および日本学術振興会科学研究費補助金「効果的なスクールソーシャルワークモデルの評価と理論構築」（基盤研究(B)）の助成にて実施するものです。

